

# 釜ヶ崎越冬活動に参加して

## 釜ヶ崎での体験

苦しむ老人の方々、そしてともに労働者の必要に応え、彼らの苦しみと与ろうとしても働くすべてのキリスト者の姿に、私は感動しています。

こうした人々を通して、私は神の愛を感じました。たとえば、F神父のように、労働者が味わうのと同じ厳しい生活を経験し、彼らとともに働きながら、生活しようとしている人々の内に。

しかし、出合いの家の存在を知るまで、私はこうしたキリスト者の努力も、けっきょく何の役にも立たないもののように感じていました。出合いの家は、日雇い労働者にとつて本当に必要なものだと感じます。炊き出し、衣類のバザー、衣類の繕い、学童保育、人を

人として尊敬する態度を育てる教育活動、アルコール問題への取り組み、野宿者の世話といった活動に、教会がひとつとなつてとりくんでいることにも、感動しました。

外国人が釜ヶ崎に住む困難も、肌で味わうことができました。ドヤに泊まってみようとしたら、何軒もの所で断わられましたし、仕事も一人ではなかなか見つけることができませんでした。二回、日雇い仕事をしましたが、二回とも建設現場の仕事で、四階の足場で仕事をさせられた時は、万一事故が起きたら、日本の法は保障してくれるのだろうかと不安に思ったものです。

医療活動や、野宿者のための施設を行政に要求するといった活動は、労働者を代弁して行うような事柄でなく、労働者と連帯して勝ち取るべきものでしょう。

釜ヶ崎での経験は、これから私自身が、インドのゴアに帰って、ザベリ才宣教会会の宣教師として行おうとする農村開発事業のため

にも、大変参考になりました。私にできることは、皆さんがこれからもこの困難な活動を続けられ、顧みられることの少ない兄弟姉妹のために、キリストとともに尽力されることを祈らせていただくだけです。しかし、私たちは祈りのうちに結ばれ、ひとつとなつて働いているのだと信じます。

(ヨアキム・フェルナンデス神父―ヨアキム師は、1月11日から19日までふるさとの家に滞在、「アジア学院」89年度研修の卒業実習を行った。)

## 釜日労働の姿勢に学びたい

T・H

月曜夜まわりの学習会で、釜ヶ崎日雇労働組合の平井氏のお話を聞き、私たちの夜まわりの意味と問題点が改めて確認できたような気がします。

組合の方々は、日雇労働を続けながら、行政、公安、ヤクザの姿勢に極端な形で現われてくる社会の抑圧と差別の構造に対して、文字通り体を張って対決して来られたことを知り、頭が下がる思いでした。

かつて世間に宣伝された「釜ヶ崎の暴動」も、実は一人の日雇労働者の交通事故で、大人にまだ息があるのにむしろをかぶせて「物」扱いされたことに対して、近くにいた労働者の方たちが痛みと怒りを覚え、人間として扱うことを求めて声をあげたことがきっかけであったことを知り、警察と社会一般の差別姿勢のむごさを見た思いがしました。そしてそれと同じものが私の中にもあることを気付かされました。組合の活動は、警察による逮捕とヤクザの仕返しがりかえされる中で、手配師たちと闘って賃上げを獲得し、行政との対決によって労働センターの設置を勝ち取り、夏祭り、越冬闘争を継続させることによってバクチによるヤクザの搾取を締め出し、行旅死と路上強盗（しのぎ）の発生を押えるという、労働者の働く権利、安全に生きる権利を守るものです。また、炊き出しも、暗い公園しか場所がないことから、むすびをかじるより、箸を使って弁当をつかう方が、労働者にとつて、人としての誇りをわずかでも傷つけないですむと、そこまで配慮していることを知り、私は自分の夜まわりの取り組みのあまさに気付かされました。

私たちの夜まわりは、野宿している方々を

「福祉」の対象としてとらえがちなのに対して、組合の方々は人権と正義の立場から「労働問題」としてとらえていると言えます。私たちの活動が組合の活動と連帯し、それを支援する位置づけがなされることこそ、大切なことではないかと感じました。

### 寄せ屋さんのこと

今日の学習会は、寄せ屋さんというのほどういう仕事かということと、どうして寄せ屋さんになったのかということを学習しました。

寄せ屋という仕事は、皆んなが使ってしまったらすぐ捨てたりする、ダンボール・新聞紙などを集めて、それを買ってくれる所に持っていくって、溶かしてまた新しいダンボールにしたりする、資源の再利用をしてくれてる人やということでした。寄せ屋さんになったのも好きでやっているのでないことも知った。トラックの運転手やとつて飲酒運転して免許取り上げられた人や大阪ガスで20年働いてとつてやめて溶接の仕事して目を悪くしたおっちゃんや寄せ屋になった理由はいろいろでした。昔は筑豊で働いたけど失業して釜に来てセンターからも仕事にいつてたけど、年をとつてきて雇ってくれないようになって寄せ屋をやっている人の話も仲間さんがしてくれました。子どもらに「こじき」と言われても「こじき

ちやう、日本書紀や」と明るく言うおっちゃん。人に頼まれて14匹も犬を飼ってたおっちゃん（今はあげたりして4匹よ）。

一生懸命、自分の力で生きていつている優しいおもしろいおっちゃんらが白い目・変な目で見られなあかんのよ。中には変なおっちゃんもおるけど、皆んな変なおっちゃんを見ただけで他の人も同じと決めつけるからあかんねやんか。一生懸命、働いても一日一〇〇〇円か一五〇〇円。ないときなんか五〇〇円で生活せなあかん人たち。

それでも犬と一緒にリヤカーで頑張ってる。大変やけど、がんばってほしい。

（大谷 純・高校二年）



# '89～'90釜ヶ崎の キリスト教協友会 越冬まとめと これから

'90年3月18日(日)



## 大人と子ども

一〇〇人以上が集まりました

越冬まとめとこれからの集会は、'90年3月18日午後2時～5時希望の家で開かれました。各グループから大人約60人と、子どもグループ(こどもの家、こどもセンター、学童保育所「芽」、ハヌル子ども会)から約40人と100人以上が集まり、越冬のまとめをしました。

## 大谷さんアメリカの

ホームレスについて話す

会は大谷愛明さんのお話(ルカ福音書5:17以下)ではじまりました。金井さんは、最近中国を旅した経験に基づき来る協友会の10年を徒労にかけながらも目標に向かって歩もうと訴えられました。毛沢東の長征とモーセの出エジプトを引き合いに出しながら話されました。続いて大谷隆夫さんのアメリカボランティア報告でした。大谷さんは、'89年7月～12月まで、アメリカのボストン・ニューヘブンでホームレスの人々のための(シエルター)で働きました。その経験を通し、アメリカのホームレス(一説によると三〇〇万人)の現状とその対応、そして原因など感想も含めて話してくれました。アメリカのホームレスの背後には、アメリカの学歴社会、能力主義が、日本よりも深刻に作用しているとも指摘しました。

## 子ども夜まわりの

パフォーマンス

子どもたちは(土曜日)、この冬の夜まわりの学習会(釜ヶ崎と子ども)で学んだことと夜まわりで実際に体験したことを構成劇にして発表しました。その演技が真に迫っているのに、大人たちは驚きました。子どもたちの積み重ねの跡を読みとることが出来ました。

## 月・木・金の各グループから:

月曜グループは、村田神父がとくに他のグループがまわらない梅田周辺の状況について報告しました。花博のために梅田周辺の人々が中之島へ追われてしまいました。木曜グループは、藤田さんが報告。恒例の学習会、今年はいろいろな事情で変更を余儀なくさせられたこと。社会が、きれいさだけを追い求めていることがわかった(天王寺公園有料化)などを話されました。金曜グループは、村松牧師が、野宿者の前年との比較表などを作り検討したことを報告された。また教会の中でも真の話し合いが出来ていないことなどを学習会で話し合った。

## 本田神父による閉会

中島代表のまとめの言葉のあと本田神父の詩14にもとづくお話で閉会しました。

## 南津守の労災事故

1月28日の日曜日午後12時30分頃、釜ヶ崎のすぐ隣、南津守の13階建てマンション工事現場において、9階ベランダ部分のコンクリート打ち込み作業中突然ベランダが崩れ落ちて、そこで作業中の4人の労働者が転落し、3人が死亡、1人が重傷という悲しい事故が起きてしまいました。その中には釜の労働者も含まれていました。この事故の直接の原因はマンション本体の柱と外側に張り出したベランダを支えるH鋼との接合部分が生産より弱い方法で行われていた事によるものです。

このところの好景気により、ビル建設ラッシュが続いています。そのため工期を短くして完成を急ごうとするあまり無理な突貫工事を行ったり、手抜き工事を行ったりするところが近頃目立ってきました。また人手不足も手伝って、作業する人々の仕事量の増加と範囲の拡大、そしてそれに伴って労働現場での労働者の事故の危

険性の増大も心配されてきました。今回も起こるべくして起こったという事故で、同様の事故の起こる危険性は十分にありまます。

特に現場でこのような危険な作業には、日雇いの労働者があつています。日雇いの労働者は朝、現場に着くまでほとんど仕事内容さえ知らされていません。危険であることも知らされずに仕事をしている可能性も大きいのです。そしてもし事故にあつて命だけはとりとめたとしても、怪我をしてわずかばかりの慰謝料をもらつて泣き寝入りし働けなくなつてしまふ人も多いいです。そしてまた、そのために釜ヶ崎近辺で野宿を余儀無くされている人も多いいです。

この事故は氷山の一角です。小さな事故に会つて現在も苦しんでいる人達も沢山います。下請けをも含めた関係企業、そしてそれを監視する立場にいる関係官庁に対し労働現場の安全とその指導を訴えていくとともに、過去事故に遭つてそれが引き金になつて現在も苦しんでいるような人々がいることも一緒に考えていく必要があるで

しょう。

## 「大嘗祭」を問う

2月4日(日)に城皇学院(大阪市中央区玉造2丁目)講堂で「大嘗祭」についての勉強会が行われた。11月に予定されている即位の礼と大嘗祭には百億円近い予算が国費から支出されることになっている。キリスト教会はこの問題に関してそれぞれの立場から反対している。カトリック教会は「大嘗祭に国費を支出するのは憲法の政教分離の原則に反する」と公式に表明し、又署名運動を始めた。

なぜ「大嘗祭」に国費を支出するのは憲法に反するのか。「大嘗祭」とはなにかを考え、行動に移すことは、キリスト教徒にとつて大切な問題である。主催はカトリック大阪大司教区であつたが講師は聖公会の信徒で神戸女学院大学文学部講師の佐治孝典氏であつた。佐治講師は、大嘗祭が新天皇と祖先の天皇霊が一体化するための神道儀式であることを指摘され、さらに「本島長崎市長銃撃事件のよう

に、意見の違うものを排除して動くには抵抗していかなければならぬ」と訴えた。

ちょうど当日は「もう黙つたられへんデー」と長崎市長銃撃事件に抗議する集会が中之島公園野外音楽堂で開かれ、主婦や教員約二百名が集つた。民主主義の根本にある「言論の自由」を頭から力で否定してしまおうとする流れは恐ろしい。だからこそ黙つていてはいけない。だからこそ勉強しなくてはならない。行動しなくてはならない。「大嘗祭」の説明をきいていると時代は逆行しているように思えてくる。やはり天皇を神にまつりあげようとしているとは思えない。そのためになぜこのような莫大な予算を使うのか。天皇を絶対化したがつている人々がいる。絶対化された天皇のもとにいわゆる国威高揚をはかろうとする人々がいる。恐ろしいことである。

集会には二百人が参加した。講師は「無関心派が一番恐い存在になる」と言っていたが、多くの人々の関心を呼び起こして行かねばならぬまい。(S)

釜ヶ崎地区

行旅死亡人

<1989.12.1 ~ 1990.3.15>

路上:

11名

	名前	年齢	性	遺留金品	発見日時
1	不詳	50~60		現金70円、デジタル式腕時計 簡易ライター	1989.12.8 AM 8:50≒3
2	不詳	50~55	男	40円 ライター2個 安全カミソリ	89.12.14. PM 10:32≒3
3	* 松永昌男	53	男	なし	90.1.23 PM 9:40≒3
4	不詳	75 <small>歳</small>	男	現金 1,120円	90.1.26. AM 4:20≒3
5	不詳	40~50	男	なし	90.2.15. AM 2:00≒3
6	不詳	45 <small>歳</small>	男	現金 2,010円. 鍵. 指輪.	90.3.3. AM 6:13≒3
7	不詳	45~55	男	黒色ジャンパー. 紺色作業上衣. 赤シャツ 灰色スホソ. 黒長ブーツ	90.2.1. AM 4:09≒3
8	不詳	40	男	なし	90.2.10. PM 11:15≒3
9	* 西川	40~50	男	なし	90.2.13. AM 10:43≒3
10	不詳	45 <small>歳</small>	男	なし	90.2.13. PM 8:44≒3
11	不詳	45 <small>歳</small>	男	なし	90.2.14. AM 7:25≒3

室内:

19名

12	* 下村健一	42	男	腕時計3個	89.12.9. AM 8:30≒3
13	* 山田 長三郎	54	男	現金31,008円. 腕時計. 印鑑各1個. 自虐手帳2冊. 日雇保険受給票1通.	89.12.17. AM 10:15≒3
14	* 寺田昭馬	47 <small>歳</small>	男	現金57,578円. 腕時計. 印鑑. 財布 健康保険保険者手帳. 他.	89.12.17. PM 4:19≒3
15	* 桶川隆	63 <small>歳</small>	男	現金18,600円. 郵便貯金通帳. 印鑑. 財布. 腕時計各1	89.12.20. AM 4:49≒3
16	* 加藤元明	60 <small>歳</small>	男	現金3,397円. 小銭入れ. 手帳. アダ入 帳. 名刺入れ. 引換券. 腕時計. 各1. 他	89.12.24. AM 8:40≒3
17	趙炳哲	51 <small>歳</small>	男	現金15,110円	89.12.29. AM 1:02≒3
18	* 中本	50~60	男	現金757円. 腕時計1個.	90.1.6. AM 11:30≒3
19	* 石井順次	59 <small>歳</small>	男	現金41,900円. 腕時計. 総合口座通 帳. 預金通帳. 定期預金計算書. 他	90.1.7. AM 9:00≒3
20	* 西川吉明	68	男	現金4円 腕時計. Xダイル各1	90.1.8. AM 10:30≒3
21	* 内谷	60~70	男	現金19,060円. 腕時計. 黒色小銭入れ 各1	90.1.18. AM 8:51≒3
22	* 森下茂一	60~70		現金 589円	90.1.19. AM 11:00≒3
23	* 原子博	58	男	現金21,969円. 日雇雇用保険手帳. 日雇健康 保険手帳. 日雇保険受給資格者票. 腕時計	90.1.30. PM 6:20≒3
24	不詳	50~60	男	現金10,285円. 小銭入れ2	90.1.31. PM 4:00≒3
25	* 林	65~75	男	現金10,150円. 小銭入れ1	90.2.4. AM 10:00≒3
26	* 上原	50 <small>歳</small>	男	なし	90.2.5. AM 10:00≒3
27	不詳	45~55	男	なし	90.2.6. PM 7:20≒3
28	* 上田誠二	40~50	男	現金1,966円. 腕時計. 印鑑各1	90.2.9. PM 2:45≒3
29	* 阿部勝利	41 <small>歳</small>	男	現金213円. 財布.	90.2.15. AM 6:50≒3
30	* 山田保母	39	男	現金155円. 鍵2. 指輪1	90.2.16. AM 9:48≒3

\*は自称

1989年度(組3.15迄) 凶死 81件 (内18件身許判明)

発見場所	死亡日時(推定)	場所	死因	処置
萩元茶屋2-4 萩元茶屋中公園内	1989.12.8 AM2:00 ≧3	同上	肝硬変	北 齋
萩元茶屋2-1-10 三崎酒店 東側路上	89.12.14. PM10:00 ≧3	同上	肝硬変	瓜破
天下茶屋1-27-15 南海本線 萩元茶屋1号踏切から北へ35mの地点	90.1.23. PM9:31 ≧3	同上	轢死 電車への 突入自殺	瓜破
萩元茶屋2-4 萩元茶屋中公園内 北側	90.1.25. PM10:00 ≧3	同上	不詳	北
萩元茶屋1-3-44 医療センター南東角	90.2.14 ≧3	同上	不詳	北
萩元茶屋2-4 萩元茶屋中央公園 北側路上	90.3.3. AM3:00 ≧3	同上	凍死	北
萩元茶屋1-12 光路上	90.2.1. AM2:00 ≧3	同上	凍死	北
萩元茶屋3-4-11 ダルマヤ酒店前 路上	90.2.10. PM9:00 ≧3	同上	不詳	北
萩元茶屋3-7 萩元茶屋南公園 公衆便所内	90.2.12. PM6:00 ≧3	同上	大葉性肺炎	北
太子2-2-27 万田屋酒店 西側歩道上	90.2.13. AM9:00 ≧3	同上	肝硬変	北
萩元茶屋1-14-17 簡易「サカシ」 前路上	90.2.14. AM3:00 ≧3	同上	肺結核	北

萩元茶屋3-6-11 ウェストポイント 7階720号	89.12.5 ≧3	同上	脳脊髄膜炎の 疑い	北
萩元茶屋2-2-13 ホテルコスモスⅡ 502号室	89.12.17. AM6:00 ≧3	〃	食道がん	北
萩元茶屋1-13-10 簡易宿泊所 千石千124号	89.12.16. PM3:00 ≧3	〃	肝硬変	北
萩元茶屋3-6-11 ホテルウェストポイント内 2階便所	89.12.20. AM00:00	〃	虚血性心疾患	瓜破
萩元茶屋1-9-8 簡易宿ニューITX 1F2号室	89.12.24. AM0:00	〃		北
萩元茶屋2-1-15 ホテル南極20号室	89.12.28. PM11:00	〃	急性肺炎	北
萩元茶屋1-12-4 緑風荘108号室	90.11.4.	〃	虚血性心不全	北
萩元茶屋1-2-12 月光荘1階 0号室	90.1.6. AM3:00	〃	虚血性心疾患の 疑い	北
太子1-8-11 ビジネスホテルラッキー306 号室	90.1.5.	〃	脳出血	北
萩元茶屋1-9-2 ビジネスホテル若松 301号	90.1.17. AM10:00	〃	消化管出血	北
萩元茶屋3-9-17 ホテル公にわ2階 2-18F控	90.1.17.	〃	肺結核	北
萩元茶屋2-6-9 簡易二見ホテル35号室	90.1.30 PM0:00	〃	肺結核	瓜破
萩元茶屋1-5-8 1:00の別館108号室	90.1月上旬	〃	脳出血	北
萩元茶屋1-2-20 宝林レ15号室	90.1.31ころ	〃	急性心不全	瓜破
太子2-2-18 簡宿公席ホテル5F 38号室	90.2.5 AM0:00	〃	脳出血	北
萩元茶屋1-3-6 入船温泉	90.2.6 PM6:45	〃	急性心不全	北
萩元茶屋3-6-11 ホテルウェストポイント 531号室	90.2.7ころ	〃	不詳	北
萩元茶屋2-5-21 ビジネスホテル1階 602号室	90.2.15 AM5:00	〃	肺疾患の疑い	北
萩元茶屋1-9-29 松原荘内階段踊場	90.2.16 AM0:00	〃	脳圧平	北

# 89越冬の死者を過剰とする 名前不詳・死因不詳は 訴える

十二月初めより二月末日まで毎年越冬闘争が行われる。年中行事にしてはならないし、又その決意で夜廻り・医療相談・生活相談その他をやっている。「生きて春を」ということばは単なるモットーではない。一回限りでも充分に重い生きるための闘いなのだ。しかも現実には毎年この生きるための厳しい闘いは展開されている。そうして毎年同じ人数に近い行旅死亡人を出している。

'89年度の越冬も'89年十二月一日から'90年三月十五日まで行われたが、その間に身元が判明しなかった行旅死亡人は三十名であった。身許の判明しなかった死亡人は'87年度で二九名、'88年度は二八名であるから、人数は変わっていないといえれば変わっていない。しかし今年こそ凍死者を出すまいという決意で始めた闘争の面からみれば数が減らないばかりか一人でも増えているというのは悲しい結果なのだ。行旅死亡人の名簿をよく眺めるとき、死者の無念の叫びが聞えてくる。今年度は男性ばかりで三十名。平均年齢は五三歳。日本男性の平均年齢が七六歳にも延びている現在、驚くほどの短命である。しかし日雇労働者の世界にあって五十歳は決して若くはない。二十歳前後から過酷な労働にすりへらした肉体は五十歳にもなればがたになり、仕事の少ないときには手配師に「おっちゃん、年やなあ」と断わられてしまう。

今年度の行旅死亡人の特徴は路上で発見された十一名に対して、十九名もの方が室内で発見されていることである。'87年度、'88年度とその傾向が見え初めてはいたが今年度は更に室内・路上と分離化されてしまった。

なぜこのように多勢が室内で屍体となって発見されたのだろうか。表をながめて気づくように路上で発見された人に比べ、死後室内で発見される時間は遅い。一月三十一日に発見された方の死亡推定時刻は一月下旬である。死後二日か三日過ぎて発見された方も多い。死者が三人も発見されたあるホテルなどは外

から見ればとても立派である。宿泊費も千五百円均一。

この数年間ドヤ(簡易宿泊所)はビジネス・ホテル化して見掛けはどんどんきれいになってきた。このような「きれいな」ドヤに泊ろうとするならば他人と交わりを持たない方がいい。隣人と交われば思わぬ出費が嵩んでしまう。仕事から帰って、コイン・ランドリーで洗濯をし、お風呂に入って一人でカンピールをのみながらほかほか弁当を食べ、テレビ



さあ 出発 雨の中を

をみて十時には寝てしまおう。そうすればいつでも千五百円の快適なドヤに泊ることができ。しかし、こうした自衛主義が却って寄せ場の孤独化を深めてしまった。その結果が死亡者が出て誰も気付かないことになるのだ。

更に名前が最後まで不明な人の多かつたのも今年の特徴である。路上で発見された十一人の中九名が名前不詳で三人は死因すら不詳である。もともと自称の多い地域であるが、その自称すら判らない。お互いに公園で野宿を強いられながら、アダナすらも呼びあわないのであろうか。「名前不詳、遺留品なし、死因不詳」と公示されているのをみると「釜ヶ崎人情」も消えつつあるのだろうかと考えさせられてしまう。合理化社会、競争社会が進めば進むほど人格は見えなくなり、人権という言葉の響きは空しくなる。特に身体を資本として働いている労働者は健康状態が悪くなつた途端に労働廃棄物として捨てられてしまうのだ。

「名前不詳・遺留品一、一〇〇円、死因不詳、年齢七五歳位」の公示は何を訴えているのだろうか。若いときにバリバリ働き、東京オリンピック、70年万博と日本の「高度経済成長」を土台から支えて来た労働者なのだ。

本年度の冬期行旅死亡人の中に一人だけ本名のはっきりしている人がある。「趙炳哲」さん。恐らく在日韓国・朝鮮人の方であろう。「年齢五一歳、現金一五、一一〇円、死因急性肺炎」在日韓国朝鮮人は、「外国人登録証」常時



ここでも やさしかったオッチャンが

携帯義務により、どこに行っても名前が確認される。そして彼も労働者として日本の経済を支えてきた。でも肺炎で亡くなったときにそばには誰もいないし家族も判明しない。大体「死因不明」などと云っているが医者はまじめに死因を調べたのだろうか。

三月三十一日、越冬期間中、土曜日のこどもの夜廻りに参加していた「こどもの里」を中心にしたこどもたちが、今年も行旅死亡者の夫れ夫れの場所に行き、十字架の墓標と共に

に手向けの花を供えた。公園の中で亡くなった労働者の十字架の墓標にはこう記されていた。「名前不詳、死因不詳、死亡日一月二十五日」名前不詳、だから火葬にふされた後はこの労働者はこの世に存在した足跡はなにも残していない。でもこども心にははっきり思い出を残している。労働者はこどもが好きである。だからやさしい。時にはチョコレートを買って待たせてくれている。それだけにいつものように「おっちゃん」と呼びかけても返事がなく、そばにいた人が「三日程前に亡くなつたよ」と云われると悲しみがこみあげてくる。名前が分からなくても、この世に生存した足跡を全部消されてしまつてもこどもの心に思ひ出は生き生きしているのである。

越冬の最後の行事ともいえるべき、こどもたちの行旅死亡者の追悼式を「この冬になくなつた人を思い出し、霊をなぐさめよう会」と名づけるが、私たちはたった一人で路上で、あるいは室内で亡くなった人の無念さを思い、現代社会が生み出した犠牲者のことを心に刻み、霊をなぐさめようとしたとき、変えなければならぬのは自分たちの生き方であることに気づくのである。



# 越 冬 日 録

'89. 10.  
'90. 4.

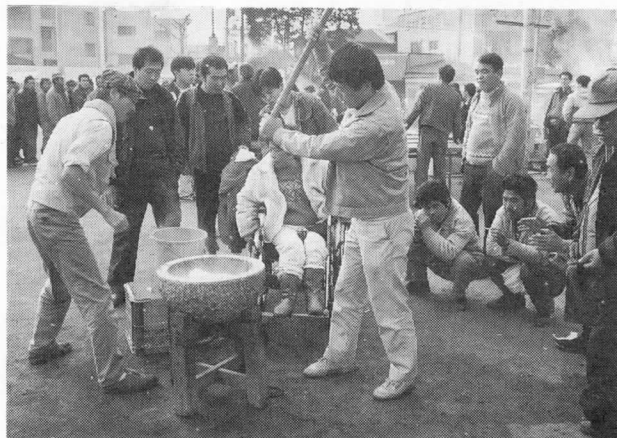
一九八九年	
10月18日	越冬小委員会第一回目の集り 患者交流会遠足
11月5日	アジアンフェスティバル 700名 参加(於玉造カトリック教会庭) 協友会11月例会(11月から月2回の例会となる)
7日	天王寺公園有料化反対の申し入れを大阪市及び市会議員に行う 越冬ゼミ小委員会
11日	西成警察署暴行事件公判
17日	子どもセンター秋の大バザー
19日	アジアンフェスティバル反省会
24日	越冬実第一回会議(於市民館)
28日	天王寺公園有料化反対会議
12月1日	越冬実会議(於市民館)
6日	越冬委員会
8日	越冬実会議
14日	市建設局事務交渉
15日	越冬実会議
16日	越冬支援連帯集会(於解放センター)
17日	協友会12月例会・クリスマス会
18日	福岡越冬突入集会
20日	阪奈病院訪問
23日	三角公園クリスマスキャロル 山王子どもセンタークリスマス 会
	天皇アキヒト誕生日祝日反対デモ(三角公園くナンバ)



越冬ゼミでの話し合い (於 ふるさとの家)

28日	山谷越冬開始
26日	子ども会、チョソソソ友の会、田こども会、ちよソソ友の会、子ども会、 第3回子どももちつき大会(矢野) 笹島越冬開始
25日	第20回越冬突入集会300名(於三角公園) 映画「侵略」 医療センター下フトン敷き開始 医療パトロール開始 子どもの里クリスマス会

21日	16日	15日	14日	11日	10日	9日	8日	7日	5日	4日	2日	1月1日	1990年	31日	29日	30日	29日	
協友会1月第2回例会	越冬実パトロール班反省会	日雇全協決起集会(於東京)	山王子どもセンターもちつき	天王寺公園集會・天王寺公園一周パレード・ピラまき・署名集め行動(参加120名)	越冬ゼミ反省会	天王寺公園有料化反対ピラまき越冬実越冬活動最終日	協友会越冬夜まわり開始	天王寺公園有料化反対ピラまき越冬実越冬活動最終日	協友会1月例会	越冬学習会(精神医療の実態)	越冬学習会(アジアカからの出稼ぎ労働者としら)	南港臨泊へ第1回面会活動	越冬まつり(のど自慢・もちつき大会・ソフトボール大会等)	1990年	越冬ゼミ開始参加女11名	寿・越冬開始	市更相で越冬臨泊の受付開始	越冬実学習会(部落差別と釜ヶ崎)
														男5名				



もちつき大会(於 三角公園)

18日	12日	11日	10日	2月5日	28日	23日
協友会2月第2回例会	子どもの里冬のキャンブ	山王子どもセンター理事会	新今宮小中学校跡地問題交渉	天皇いらん西成区民の会	集會(於解放センター)主催・日ノ丸・君が代義務化反対学習	天王寺公園有料化反対會議

・写真提供者  
 水野松男・寺田利  
 釜ヶ崎越冬ゼミナール委員会  
 こどもの里  
 ・カット  
 ベン・シャーン

4月1日	31日	25日	22日	18日	5日	3月4日	24日	20日
協友会合宿(於宝塚御受難会黙想の家)	行旅死亡者の霊を慰める集い(こどもの里主催)	ポランティア講座「福音と正義」(於ふるさとの家)	医療連討論学習会(性差別について)	越冬のまとめとこれから(於喜望の家)参加100名	SCM現場研修セミナー	天王寺公園有料化再開園・公園ゲート前で意思表示	天王寺公園有料化再署名を提出(署名数・九六三六名)	市建設局公園担当理事に天王寺公園有料化反対署名を提出(署名数・九六三六名)